

Monthly Report

仙台大学川平キャンパス・仙台大学附属明成高等学校新校舎・新体育館完成記念イベントを開催



明成高校現役生 対 明成OB親善試合

本学を設置する朴沢学園は川平地区再整備事業として約4年を経て附属高校の新校舎と法人本部、本学川平キャンパスの完成を迎え、2月18日（土）に仙台大学川平キャンパス新体育館で「仙台大学川平キャンパス・仙台大学附属明成高等学校新校舎・新体育館完成記念イベント」を開催しました。

完成記念式典では、朴澤泰治理事長が「体育・スポーツにDXという新しい取り組みを展開していき、高大7年間の接続した学びを踏まえた体育教員その他スポーツ指導者等の人材育成を図っていきたい」と挨拶し、次いで、高橋仁仙台大学学長及び岡邦弘明成高校校長が挨拶を行い、引き続き来賓を代表し、村井嘉浩宮城県知事代理の小野寺邦貢総務部副部長からご祝辞を頂きました。

式終了後に施設見学会が行われた後、新体育館でバスケットボール親善試合として仙台大学附属明成高等学校の現役生と卒業生が対戦しました。その際、新たに設置したAIカメラを使用し、本学スポーツ情報サポート研究会の学生がYouTubeで生配信も行いました。

また、ハーフタイムには、仙台大学新体操部による演技披露、また仙台大学附属明成高等学校男子バスケットボール部OB選手から寄せられたお祝いメッセージの披露、最後には、同じ卒業生の八村 塁氏の祝賀メッセージも披露され、出席した来賓、本学関係者、附属明成高校の生徒ら合わせ約1000人が魅了されました。



ハーフタイムショーで会場を魅了する本学新体操競技部



実況（佐藤修スポーツ情報マスメディア学科長）、解説（金田詳徳准教授）、ゲスト解説（現役プロバスケットボールプレイヤーの3人）

〈 目 次 〉

・ 仙台大学川平キャンパス・仙台大学附属明成高等学校新校舎・新体育館完成記念イベントを開催	1
・ 仙台経済同友会、仙台大学による「業界研究セミナー（部活動支援賛同企業編）」を開催 ・ 楽天イーグルスアカデミー特別講義／株式会社楽天野球団とのアカデミックパートナーシップ協定	2
・ 第4回仙台カップ 全国女子学生柔道団体対抗大会を開催 ・ 2023東北バレーボールリーグ／新体制初の公式戦	3
・ 男子サッカー部/13年連続でJリーグ一輩出！	4
・ 郷内翔さん（現武3年）がドイツ・オーストリア研修を報告 ・ 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 58	5

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

仙台経済同友会、仙台大学による「業界研究セミナー（部活動支援賛同企業編）」を開催

仙台経済同友会と本学園は昨年12月に部活動支援プロジェクトに係る連携協定を締結し、それに伴い2月22日（水）に「業界研究セミナー（部活動支援賛同企業編）」を開催しました。

同プロジェクトは、学生は体育系大学である本学で修得した専門知識を活かし、企業等に就職した後も競技指導者として関わることができ、一方、仙台経済同友会は同プロジェクトに欠かせない派遣指導者の人材確保に繋げることを期待するもので、今回の「業界研究セミナー（部活動支援賛同企業編）」では同プロジェクトに賛同する企業8社が、部活動に所属する3年生以下の本学学生100名に対し、入社後の部活動支援に関する体制や仕事内容などが紹介されました。



参加した男子バスケットボール部の鈴木雄音さん（体育3年）は「卒業後は競技を続けることは考えていませんでしたが今回の話を聞いて、教わってきたことを子供たちに伝えることができるプロジェクトにとっても興味がわきました」と話してくれました。

本学では仙台経済同友会と今後も部活動支援プロジェクトの関する企業の説明会を開催する予定です。

楽天イーグルスアカデミー特別講義／株式会社楽天野球団とのアカデミックパートナーシップ協定

1月24日（火）10：20～11：50のジュニアスポーツ指導論（体育学科コーチングコース開講）の講義内にて、「楽天イーグルスアカデミー特別講義」が行われ、約60名の学生が参加しました。

本講義は楽天野球団とのアカデミックパートナーシップに基づき、同球団のアカデミーでジュニア指導に関わる本学OBの講師をお招きし、現場での指導上のポイントや注意点を指導いただきました。

受講した学生は「楽天野球団のアカデミーの方々言葉だけでなく、体を使って説明して下さったのでとても分かりやすく学ぶ事ができました。今日の講義でアカデミーに興味を持ったので、色々今日聞けなかった部分を調べてみようと思います。」「体の使い方などすごく細かく、わかりやすく説明してもらい、野球でのピッチング動作に繋がられるコアの部分、股関節の部分など勉強になりました。現役が終わったらコーチングに興味があるので話を聞いて面白かったです。」など、講師の先生の見本を交えながら的確な講義に多くの刺激を受けることができました。また、小中学生への指導法や、楽天イーグルスアカデミーでの実体験を踏まえた指導論なども学ぶことができ、非常に有意義な機会となりました。



第4回仙台カップ 全国女子学生柔道団体対抗大会を開催



2月15日（水）、16日（木）本学柔道場で「第4回仙台カップ 全国女子学生柔道団体対抗大会」を開催しました。

この大会は、2017年に本学の50周年記念大会として女子アスリート発掘・育成、ならびに女子柔道の振興を図ることを目的に開催され、今大会はコロナ禍の影響から3年ぶり4回目を迎えました。

5人制の団体戦となる今大会は13大学16チームが参加し、4グループによる予選リーグを勝ち抜いた上位2チームがQueenトーナメント、下位2チームがPrincessトーナメントへ進み、勝負を競い合いました。

開会式では高橋仁学長が「記憶に残る大会になるよう頑張ってください」と激励し、予選リーグが始まると白熱した試合が展開されました。本学柔道部は2チームが出場し、Aチームは予選リーグ3勝0敗でQueenトーナメントへ進みましたが、準決勝で龍谷大学に0-1のスコアで惜敗、気持ちを切り替えて臨んだ3位決定戦でしたが、日本大学に1-3で敗れ、5位となりました。またBチームは予選リーグ1勝2敗でPrincessトーナメントへ進み、準決勝で帝京科学大学B、決勝で大坂体育大学に勝利し、優勝しました。

本学女子柔道部の南條和恵監督は「3年ぶりに、本学でこのような大会を開催することができ、関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。全国各地で我々と同じような思いを持ち、日々努力されている大学の指導者、選手がここ船岡に集まり切磋琢磨できたことを嬉しく思いました。大会期間中、学生たちの表情が試合ごとにかくまくなっていき、やってきたことが形になってきていることも感じました。また、審判員として参加した学生や、補助役員をしてくれた学生も勉強になったことと思います。キッズルームなど、ご協力いただきましたすべての皆様に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました」と話してくれました。

2023東北バレーボールリーグ／新体制初の公式戦

2023東北バレーボールリーグが2月18日（土）から岩手県紫波町・OGALアリーナで開催されました。

この大会は「バレーボールを通じて地域を元気にする」ことを目的に、2週にわたり行われるバレーボールでは日本初の独立リーグとなる大会です。東北6県の男子選抜チームによるリーグ戦・決勝トーナメントが行われ、本学は宮城県代表「wolfies宮城」として出場しました。

18日（土）

予選リーグ1回戦 対 OWLS岩手

仙台大学 0 (16-25、20-25) 2 OWLS岩手

19日（日）

予選リーグ2回戦 対 青森ブランデュー弘前

仙台大学 2(25-21、23-25、25-22)1 青森ブランデュー弘前

予選リーグ3回戦 対 福島PEACHBOMBERS

仙台大学 2(25-20、24-26、25-23)1 福島PEACHBOMBERS



新体制になり初の公式戦で、全員に出場機会が与えられ、多くの選手の活躍が見られました。

次戦は3月4日（土）、5日（日）に岩手県紫波町・OGALアリーナで行われます。引き続き、仙台大学男子バレーボール部の応援をよろしくお願ひします。

<男子バレーボール部>

男子サッカー部/13年連続でJリーガー輩出！

仙台大学史上最速Jチーム内定！得能草生（体育3年）が来季J2水戸ホーリーホックに加入内定およびJFA・Jリーグ特別指定選手に承認



【得能 草生（トクノウ ソウキ）プロフィール】

- ポジション： MF
- 生年月日：2001年11月7日（21歳）
- 身長/体重：165cm/68kg
- 出身：北海道札幌市
- チーム歴：
石狩フットボールクラブ→北海道コンサドーレ札幌U-15→青森山田高校→仙台大学

【コメント】

水戸ホーリーホックという素晴らしいクラブで幼い頃からの夢であるプロサッカー選手のキャリアをスタートできることを大変嬉しく思います。

今まで携わってくれた方々への感謝を忘れず、仙台大学サッカー部の価値を証明していけるような存在となり、そして少しでも早く水戸ホーリーホックの勝利に貢献できるように一生懸命頑張ります。

応援よろしくお祈いします。



石尾陸登（体育3年）がベガルタ仙台へ加入内定



【石尾 陸登（イシオ リクト）プロフィール】

- ポジション： DF
- 生年月日：2001年8月7日（21歳）
- 身長/体重：181cm/72kg
- 出身：岐阜県多治見市（※出生地は愛知県）
- チーム歴：
南姫FCジャーボア→JFAアカデミー福島U-15→JFAアカデミー福島U-18→仙台大学

【コメント】

自分の夢であるプロサッカー選手をベガルタ仙台で叶えることができ、とても嬉しく思います。ここまで支えてくれた家族やコーチ、関係者の皆様に感謝しながら精一杯頑張ります。そして、ベガルタ仙台の勝利に貢献できるように努力していきます。

応援よろしくお祈いします。



郷内翔さん（現武3年）がドイツ・オーストリア研修を報告



オーストリア・ボブスレー・スケルトン協会と連携し、1月22日（日）～2月12日（日）にドイツ・オーストリア研修を行った、郷内翔さん（現在武道3年、ボブスレー・リュージュ・スケルトン部）が2月17日に高橋仁学長へ研修成果を報告しました。

この研修は、選手の育成・強化だけではなく、指導者養成やスポーツ設備や運営等に関する情報交換を目的に、今回はローカルトーナメントの出場及びワールドカップの帯同、トレーニング・コーチング研修に参加しました。

郷内さんは「競技がとても楽しかった。また、ワールドカップに出場する選手たちの活動や取り組みがわかってとても勉強になった」と話してくれました。

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.58

助手 白坂 広子

仙台大学川平キャンパス新体育館・研究棟（川平KMCH）完成記念式典

2月18日（土）、仙台大学川平キャンパス・仙台大学附属明成高等学校新校舎・新体育館完成記念イベントが行われました。当日は来賓が約180名と多くの方にお越しいただきました。私たち川平スタッフは施設案内を担当し、1階の健康増進研究実践室（プラクティカルラボ）及び地下のトレーニング研究実践室（トレーニングラボ）で実技を行い、2階Eラボへ映像配信をする、という授業スタイルのデモを披露しました。いくつかの質問やご感想をいただき、今後の運営の参考にしていきたいと考えています。



思い返せば昨年8月、まだ川平KMCHが鉄骨剥き出しのころに初めて内覧し、施設の概要の説明を受けました。高校生にスポーツ科学に関する多くの「気付き」を与え、大学で深くを学ぶ、という7カ年教育の始まりとなる川平KMCHの構想に、川平で高校生の成長に関わる業務を担っている身として、とても楽しみを感じました。来年から大学生のように高校生もiPadをそれぞれが持ち、授業で使用していきます。特にスポーツ創志科では、スポーツ科学の視点を1年時から取り入れ、自己の健康管理を習慣化させるため、ユーフォリア社のONETAPSPORTSを開始します。そしてスポーツ科学の様々な視点で体育授業を展開するため、プラクティカルラボにはノラクソン社ウルティウム筋電計・モーションセンサー、Visible Body社の3Dアトラス解剖図、インボディジャパンのInBody970、Precor社の有酸素トレーニング機器4台、そしてトレーニングラボには光電管、加速度計、ジャンプテスト、心拍モニターを導入しました。

来年から高校体育教員とさらなる連携と、強固な協力関係が必要となってきます。この川平KMCHの素晴らしい環境を最大限に活用し、頑張っていきたいと思っています。



2階Eラボ：映像配信



地下のトレーニング研究実践室
（トレーニングラボ）



1階の健康増進研究実践室
（プラクティカルラボ）

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探求することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画